事務事業評価シート

(評価対象年度：令和2年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		有害鳥獣被害防止対策事業			②事業番号	3403		
③事業類型	3. 政策推進事業			④開始年度	平成 18 年度	⑤終了予定年度	年度 ○ 設定なし	
⑥根拠法令等	○ 法令	○ 条例	○ 規則	○ 要綱	○ 計画等	○ その他	法令等の名称: 泉南市鳥獣被害防止計画	
⑦実施手法	直営	○ 全部委託	○ 一部委託	補助・負担	その他			
⑧関連予算科目コード	款	5	項	1	目	3	細目	2
⑨担当部署	市民生活環境部		⑩担当課名	産業観光課		会計	一般会計	

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 市民	① 市民	人
② 市内農業者	② 総農家数	戸
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
・年々増加する鳥獣による農作物等の被害を防止するため、市民に捕獲檻を貸し出し、捕獲した鳥獣は市が処理を行ったり、大阪府猟友会泉南支部にイノシシの捕獲、駆除を委託、被害の発生防止に努める。 ・また泉南市鳥獣被害防止対策協議会へ補助金を交付し鳥獣被害対策に努める。	① 駆除業務委託料(猟友会)	千円
	② 有害鳥獣捕獲許可件数	件
	③ 有害鳥獣捕獲檻貸出件数	件
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
・アライグマやイノシシ等の鳥獣による農作物等の被害を防止する。	① 有害鳥獣捕獲数(アライグマ)	頭
	② 有害鳥獣捕獲数(イノシシ)	頭
	③ 計算式	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
・有害鳥獣による農作物等の被害を防止し、営農意欲及び生産性の向上が図られる。 その他の体系上の位置付け (3-1-1-4): 農作物の被害がない営農は、担い手の確保と育成に繋がる。	政策(章)	3 産業の活力が増し、賑わいと交流が生まれるまち
	施策大(節)	1 大地と海からの恵みとしておいしく安全な食料を供給し続けるとともに、魅力的な農業と漁業のあるまちをめざします
	施策中	1 農業の振興
	施策小	2 農地の保全と活用

〔2〕各種指標値、事業費の推移

指標名		単位	H30実績	H31実績	R2実績	R3見込	R2目標	
対象指標①	市民	人	61,984	61,457	60,795	—	—	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②	総農家数	戸	617	617	502	502	—	
活動指標①	駆除業務委託料(猟友会)	千円	350	682	753	753	—	
活動指標②	有害鳥獣捕獲許可件数	件	7	2	1	1	—	
活動指標③	有害鳥獣捕獲檻貸出件数	件	129	153	160	160	—	
成果指標①	有害鳥獣捕獲数(アライグマ)	頭	111	110	129	120	—	
成果指標②	有害鳥獣捕獲数(イノシシ)	頭	114	107	140	140	—	
成果指標③								
事業費	投入人員							
	正職員	人	0.16	0.79	1.17	1.17		
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
事業費	人件費(投入人員*単価)	千円	1,297	6,092	8,929	8,929		アライグマ、イノシシともに目撃、被害及び措置業務が増加している。それに伴い投入人員数も増加している。
	直接事業費	千円	570	1,431	1,291	754		
	総事業費	千円	1,867	7,523	10,220	9,683		
財源内訳	国庫支出金	千円	41	677	516	0		また、H31年度からアライグマの措置を猟友会に委託することになったため、委託料が増加した。R3年度は委託料のみのため、事業費減。
	府支出金	千円	88	74	81	75		
	受益者負担金	千円	0	0	0	0		
	その他特定財源	千円	0	0	0	0		
	一般財源	千円	1,738	6,772	9,623	9,608		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	年々増加するイノシシ等の鳥獣による農作物等の被害を防止するため。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	アライグマ、イノシシによる被害も増加し、今後、更なる被害防止対策が課題となる。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

[1]目的妥当性(必要性)		A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[1]の評価	A
評価項目		評価及び理由・説明等					
①事業サービス内容、質、規模等は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)		ア. 合っている	イ. ある程度	ウ. いない	更なる防止対策を必要とする。		

[2]有効性		A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[2]の評価	A
②期待どおりの成果が得られていますか。		ア. 得られている	イ. ある程度	ウ. いない	有害鳥獣捕獲を実施しなければ個体数が増え、被害が増加すると考えられる。		
③今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができますか。)		ア. ある	イ. ない	委託先である猟友会泉南支部との協議が必要である。			
④庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。		ア. 類似なし	イ. できる	ウ. できない	—		

[3]効率性		A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[3]の評価	A
⑤成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)		ア. ある	イ. ない	委託先である猟友会泉南支部との協議が必要である。			

4. 総合評価

総合評価	評価(A~D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理
	A	有害鳥獣被害防止対策は、市民のために必要であり、現在、事業費、人件費共に必要最低限で行っており、現状のまま継続することが望ましい。
		A:現状のまま事業を進めることが適当 B:課題が少しあり事業の一部見直しが必要(事業の進め方に改善が必要) C:課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要(事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D:事業の統合、休止・廃止の検討が必要

5. 改革、改善案【ACTION】

ア		ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ↓ (___ 年まで) (___ 年から) (___ 年から)
ア		<今後の展開方針> a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)
①改革、改善の具体案、実施年度など		—
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策		—